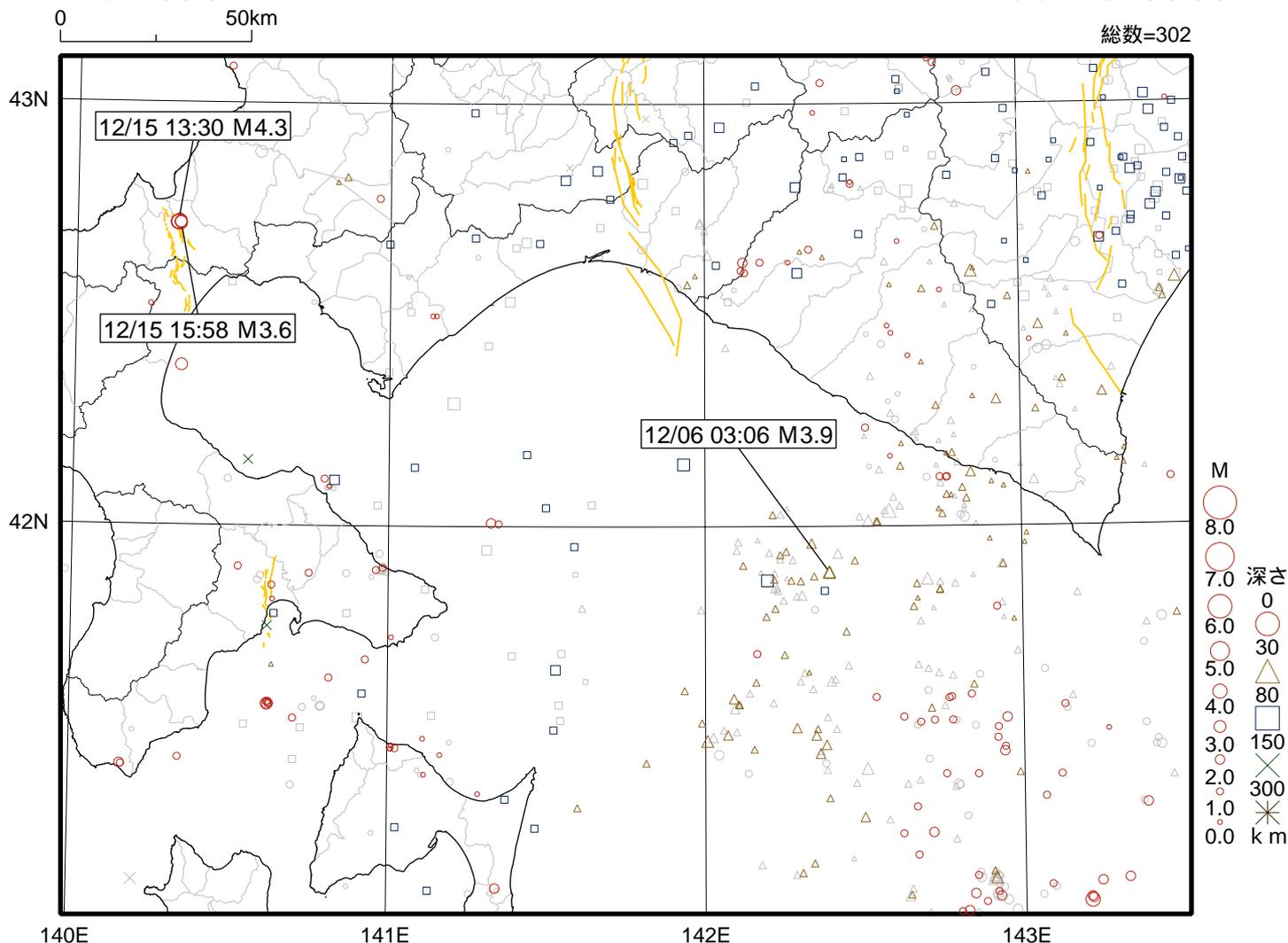


# 胆振・日高地方の地震活動図

2022年12月1日～2022年12月31日

震央分布図

室蘭地方気象台



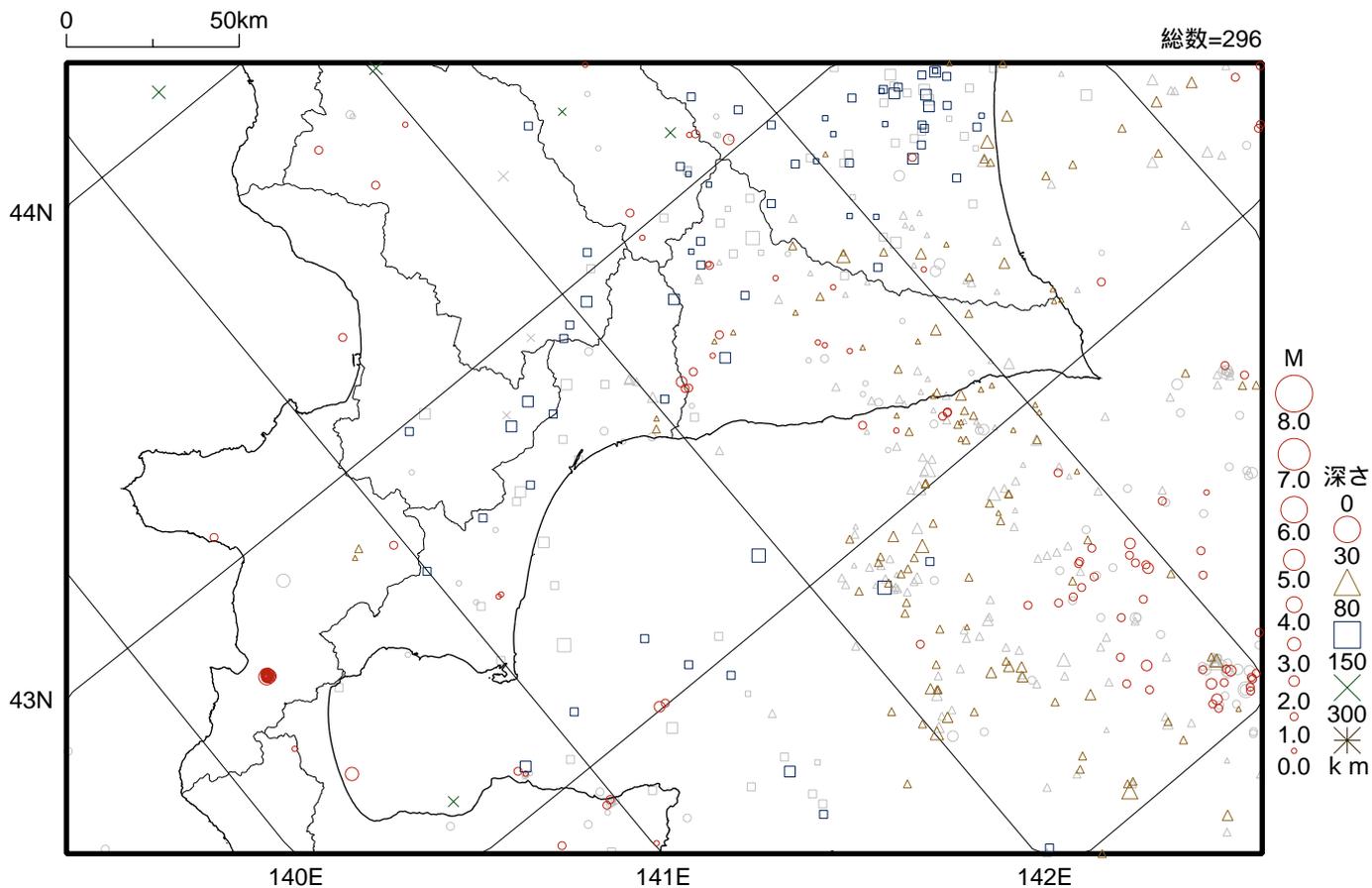
## 地震概況（2022年12月）

この期間、胆振・日高地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は4回（11月は5回）でした（「胆振・日高地方で震度1以上を観測した地震の表」参照）。

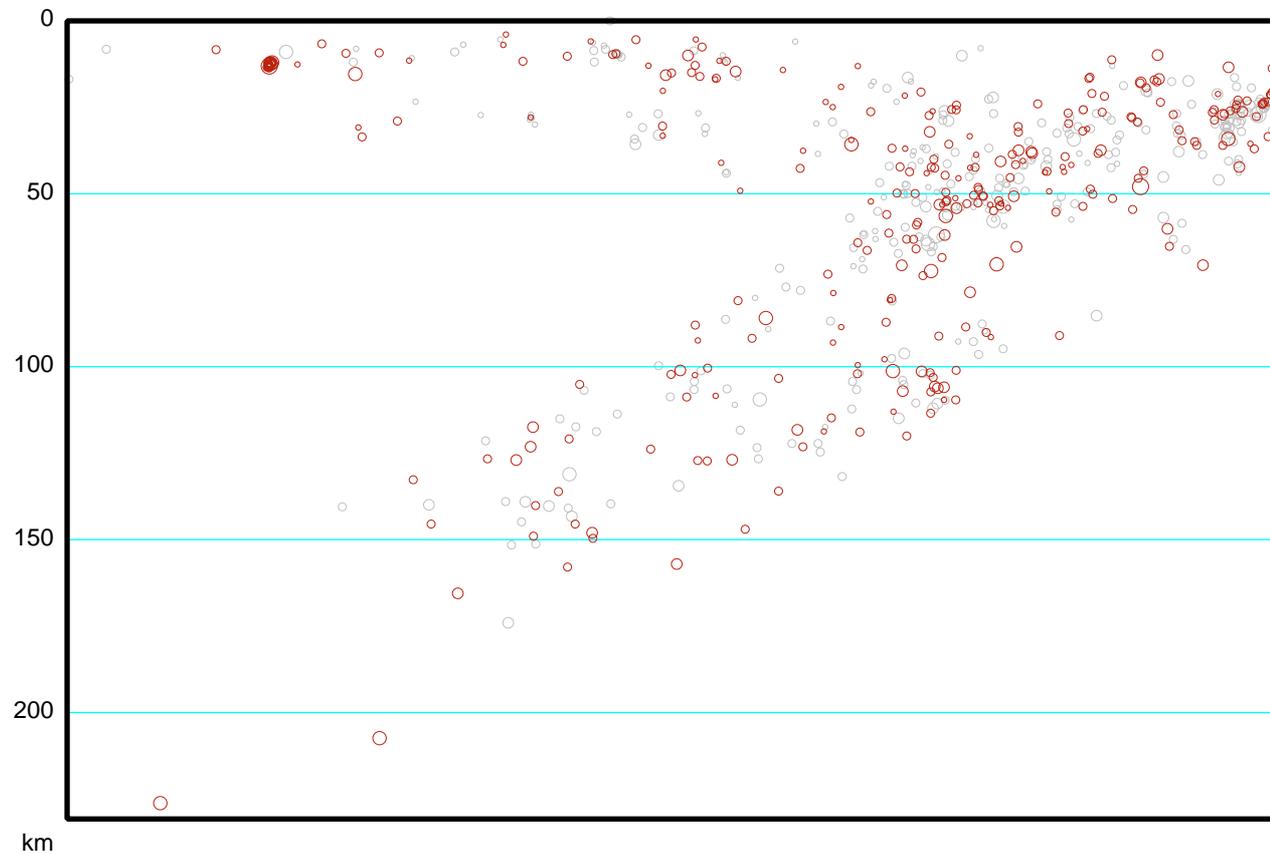
15日13時30分、後志地方西部の地震（M4.3、深さ13km）により、豊浦町で震度3を観測したほか、胆振・日高地方で震度2～1を観測しました。また、同日、15時58分にほぼ同じ場所で発生した地震（M3.6、深さ12km）により、豊浦町で震度1を観測しました。

2022年12月1日 ~ 2022年12月31日

震央分布図



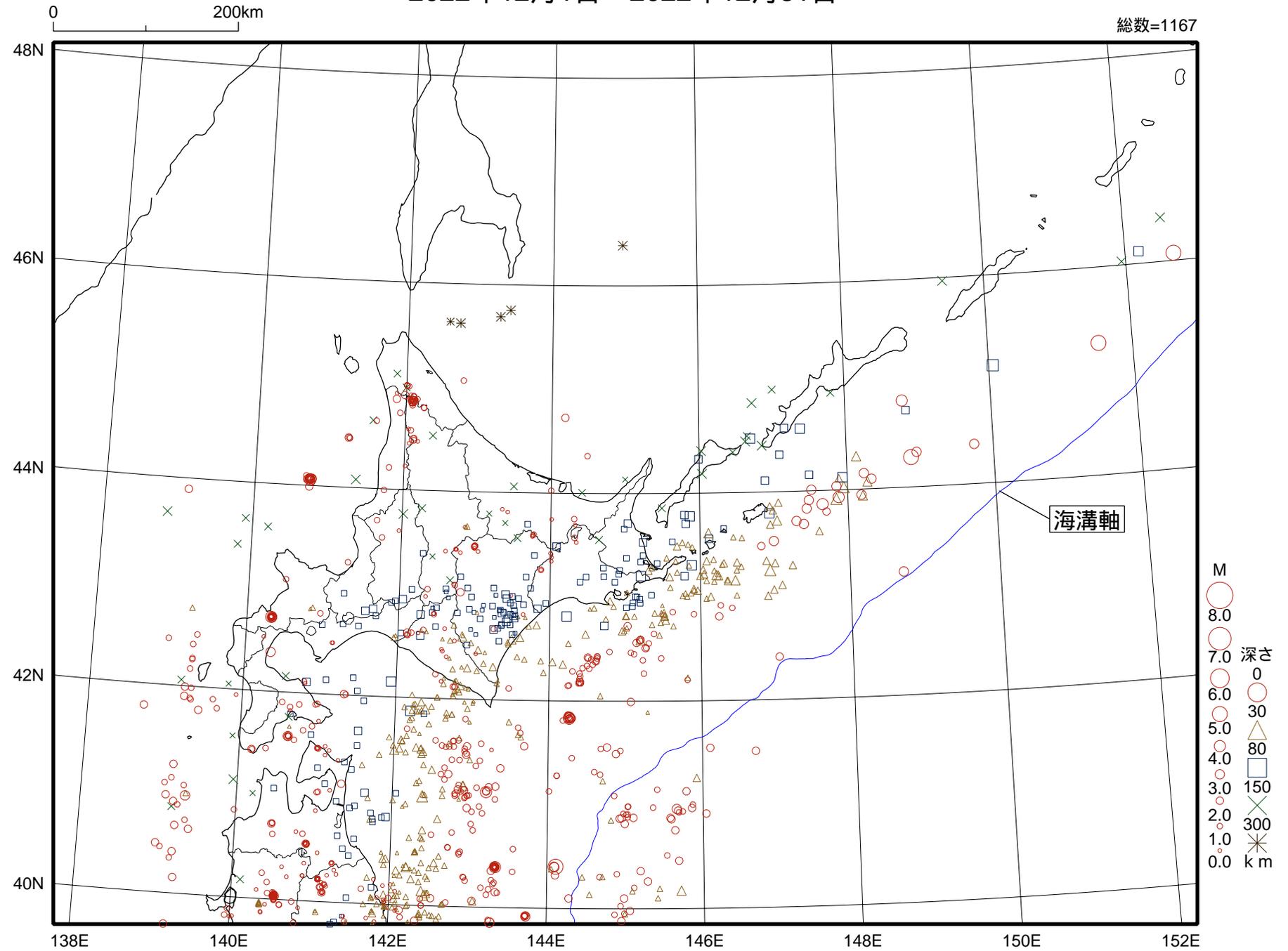
断面図



# 北海道の地震活動図

2022年12月1日 ~ 2022年12月31日

震央分布図



## 胆振・日高地方で震度 1 以上を観測した地震の表 (2022年12月)

年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯 (N)	東経 (E)	深さ (km)	規模 (M)
2022年12月 6日 日高地方	00時20分 震度 1	青森県東方沖 様似町栄町 * (06) えりも町えりも岬 * (06)	41° 03.1 N	142° 23.1 E	48 km	M4.6
2022年12月 6日 胆振地方 日高地方	03時06分 震度 1 震度 1	浦河沖 安平町追分柏が丘 * (09) 浦河町潮見(08) 浦河町築地 * (05)	41° 53.4 N	142° 23.5 E	72 km	M3.9
2022年12月15日 胆振地方	13時30分 震度 3 震度 2 震度 1	後志地方西部 豊浦町大岸 * (25) 胆振伊達市大滝区本町 * (16) 洞爺湖町洞爺町 * (18) 胆振伊達市梅本(10) 壮瞥町滝之町 * (12) 洞爺湖町栄町 * (12) 登別市鉾山(07) 登別市桜木町 * (06)	42° 42.8 N	140° 19.2 E	13 km	M4.3
2022年12月15日 胆振地方	15時58分 震度 1	後志地方西部 豊浦町大岸 * (14)	42° 42.9 N	140° 19.7 E	12 km	M3.6

\*のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

( )内の数値は0.1単位の詳細な震度(計測震度)の小数点を省略して表しています。

### 計測震度と震度階級の関係

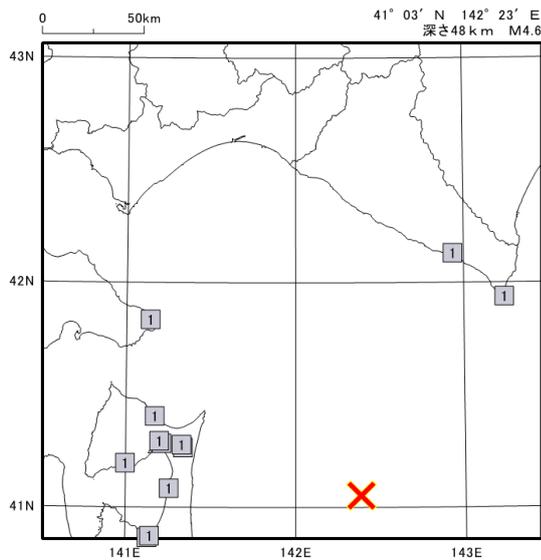
計測震度	~ 0.4	0.5 ~ 1.4	1.5 ~ 2.4	2.5 ~ 3.4	3.5 ~ 4.4	4.5 ~ 4.9	5.0 ~ 5.4	5.5 ~ 5.9	6.0 ~ 6.4	6.5 ~
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

# 胆振・日高地方の震度観測点配置図

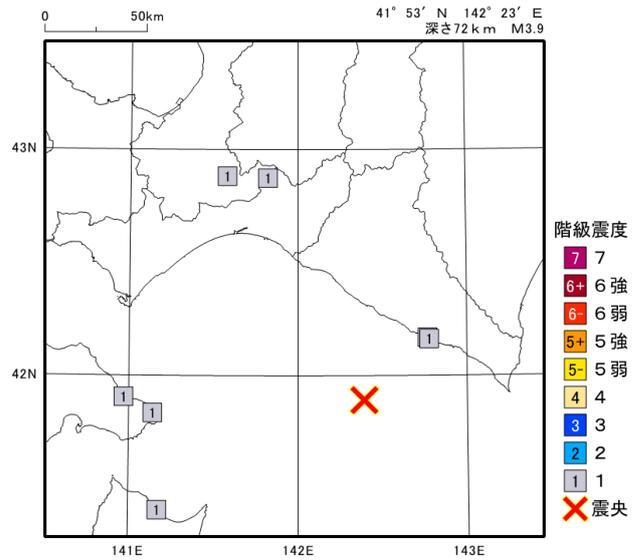


## 震度分布図（胆振・日高地方で震度1以上を観測した地震）

2022年12月6日00時20分 青森県東方沖の地震の震度分布図

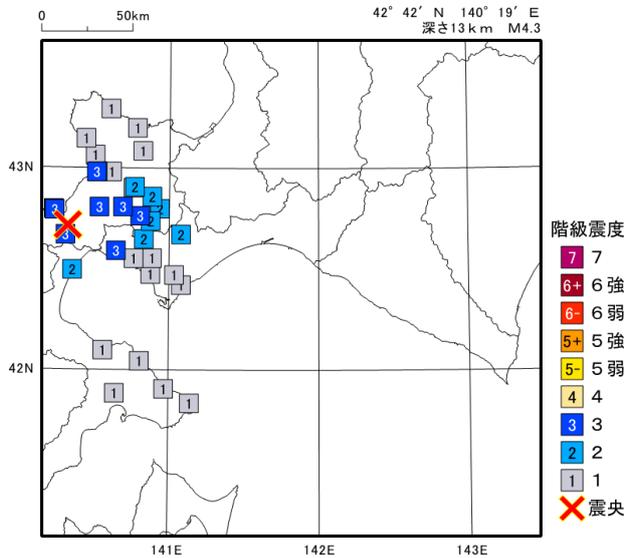


2022年12月6日03時06分 浦河沖の地震の震度分布図

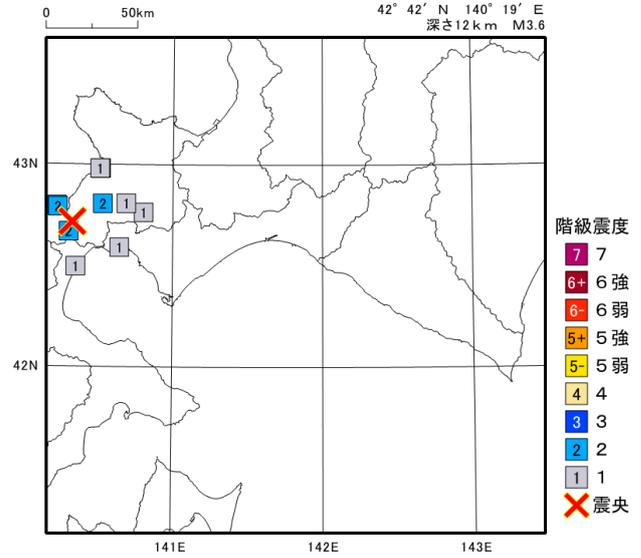


# 震度分布図（胆振・日高地方で震度1以上を観測した地震）

2022年12月15日13時30分 後志地方西部の地震の震度分布図



2022年12月15日15時58分 後志地方西部の地震の震度分布図



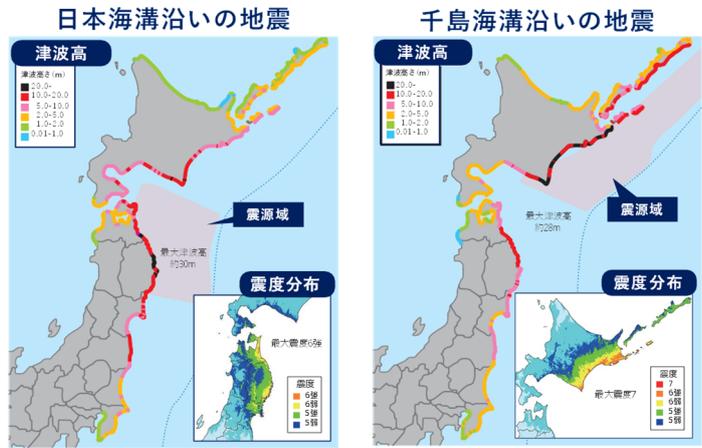
## 本資料の利用にあたって

- ・ 本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
- ・ 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
- ・ 図中橙色の線は、地震調査研究推進本部が地震発生可能性の長期的な確率評価を行った主要活断層を表します。
- ・ 過去の地震と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。
- ・ 本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号平29情使、第798号）。

# 知っていますか？ 令和4年12月16日開始 ～北海道・三陸沖後発地震注意情報～

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震は、そのほとんどが突発的に発生するため、平時から防災対策を徹底することが重要ですが、この領域では、モーメントマグニチュード(Mw)※7以上の地震(「先発地震」と呼びます。)が発生した後、数日程度の短い期間において、さらに大きな Mw8 以上の大規模な地震(「後発地震」と呼びます。)が続いて発生する事例が確認されています。このことから、甚大な被害を少しでも軽減するため、後発地震への注意を促す、「北海道・三陸沖後発地震注意情報」の発信を2022年12月16日から開始しました。

なお、「北海道・三陸沖後発地震注意情報」発信後、実際に後発地震が発生する可能性は、世界的な事例を踏まえても100回に1回程度であり、必ず発生するわけではありません。情報が発信された場合には、社会経済活動を継続した上で、地震への備えの再確認や、すぐ避難できるように準備するなどの防災対応をとるようにしましょう。



## 北海道・三陸沖後発地震注意情報

- **発信条件**  
想定震源域で Mw7.0以上の地震が発生  
※その周辺でも地震の規模によっては発信
- **発信方法**  
気象庁・内閣府の合同記者会見
- **防災対応をよびかける期間**  
地震発生から **1週間**
- **発信の頻度(想定)**  
概ね **2年に1回程度**
- **防災対応をとるべきエリア**  
津波高 **3m以上** または **震度6弱以上** が想定される地域 ※左図の着色された市町村

※この情報は、大規模地震の発生可能性が平時よりも相対的に高まっていることを伝える情報であり、情報が発信された場合でも後発地震が発生しない可能性が高いことに留意。

※断層の面積やずれの量などをもとにして計算されるマグニチュードを、モーメントマグニチュード(Mw)と言います。地震情報等で速報的に報じるマグニチュードよりも物理的な意味が明確で、地震エネルギーと対応が良いですが、算出にある程度の時間を要します。

巨大地震が発生した場合に、北海道から千葉県にかけての広い範囲で想定される甚大な被害に対し、1週間程度、備えの再確認や迅速な避難態勢の準備を。

枕元に靴等を置いて寝る



すぐに逃げ出せる態勢での就寝



非常持出品の常時携帯

インターネット



緊急情報の取得体制の確保

崩れやすいブロック塀等に近づかない



想定されるリスクから身の安全の確保



日頃からの備えの再確認

## 【防災メモ】

# ～冬の大地震に備えて～

発生が切迫している日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震・大津波をはじめ、冬に大きな地震が発生した場合には、強い揺れや津波の被害に加え、雪や寒さが原因となる二次災害が起こることもあります。人的被害をできるだけ軽減するためにも、冬の大地震への備えについて、以下の点に注意しましょう。

### 1. 雪や凍結路に対する備え

屋根に雪が多く積もっていると、地震の揺れによる家屋の倒壊や、屋根からの落雪の可能性がより大きくなります。屋根からの落雪は人を巻き込む危険性があるほか、避難路をふさぐ原因にもなりますので、十分に注意しましょう。

地震・津波から避難する場合、冬は路面の積雪や吹雪などにより時間がかかります。避難所や避難場所までの経路を事前に確認しておきましょう。また路面が凍結していると滑りやすいため、避難の移動中に転倒して負傷する恐れがあります。そのため路面状況をよく確認し、慌てず避難しましょう。



### 2. 火災に対する備え

暖房器具を使用する冬場に地震が発生すると、火災のリスクが高まります。転倒時に自動停止する機能があっても、停電からの復電とともに再起動したり、配線の損傷から漏電したりして出火する通電火災に注意が必要です。暖房器具のそばには可燃物を置かないようにし、避難の際はブレーカーを切るようにしましょう。



### 3. 寒さへの備え

地震によって電気やガスが止まり、暖房器具が使えなくなることが考えられますので、このような時でも使用できるようなポータブルの暖房器具を用意しておきましょう。また、屋外で低体温症になるのを防ぐため、防寒着や防寒靴、毛布、カイロなどを避難時にすぐ持ち出せるようにしておくことで安心です。



### 4. 雪についての情報

気象庁ホームページでは「今後の雪」の情報を提供しています。このコンテンツでは、積雪の深さと降雪量の分布について、24時間前から現在までの状況及び6時間先までの予測を一体的に確認できます。

これまでの積雪と今後の雪に関する情報として、避難路の確保等にご活用ください。

「今後の雪」 <https://www.jma.go.jp/bosai/snow/>

